

街市 (Retail Market) を中心とする香港の空間構成に関する研究

○ 正会員 木下 光*1
西村幸夫*2

1.はじめに：香港の各街区には街市と呼ばれる市場があり、hawkers (屋台) や商店街をしばしば伴う形で商業空間を形成している。本研究の目的は、この街市を用いて、香港の空間構成を明らかにすることである。
2.街市について：街市とは生鮮食料品を扱う市場であり貸し与えられる間口2、3mのstallと呼ばれる店舗によって構成されている。現在、香港島と九龍において、街市は53箇所 (2箇所は新規の街市で建設中) あり、出店しているstallの数は、香港島で4264、九龍で6061あり、総数は10323である。(1993年6月現在) stallの出店数は街市の規模、すなわち街区の規模によるが、小さい所で30から50、大きな所では200から300、最大では700くらい出店している街市もある。また、現在ある街市は以下のように大きく2つに分類することが可能である。

- 1) 低層の街市：1930年代から1970年代に建設。肉、魚を中心に生鮮食料品を扱う。屋上が公園や官舎になっている場合もある。
- 2) 高層の街市：1980年代以降に建設。低層階に1)と同じ形で生鮮食料品の市場が入り、その上階にC/Fや公共施設があるCOPLEX。

3.hawkersについて：肉、魚を除く生鮮食料品、雑貨等を扱う物売りで発効されるライセンスによって営業している。

- 1) fixed-pitch：路上に固定された屋台、最終的には街市に収容される予定。
- 2) moving cart：移動式の屋台、新規のライセンスの発効は停止。→将来的に消滅。

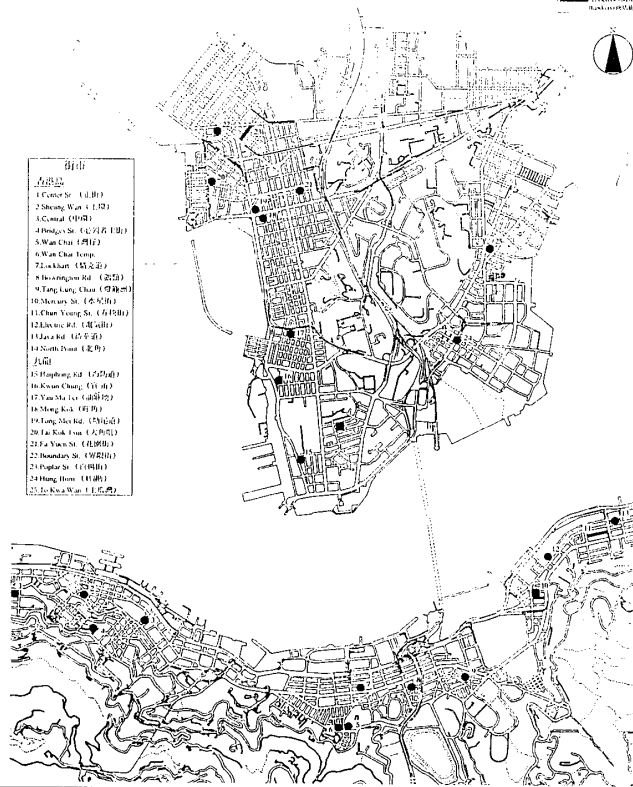
4.街市の形成過程

	1 段階：hawkers + 商店 (点構成)
	2 段階：hawkers + 商店街 (線構成)
1930年代	3 段階：A ~ 街市 + hawkers + 商店街
↓	B ~ 街市 + hawkers
1970年代	C ~ 街市 + 商店街
	D ~ 街市のみ
1980年代	4 段階：TEMPORARY (臨時街市)
↓	5 段階：COMPLEX (高層の街市)
	= 街市 + C/F + 公共施設
	→ 公共施設：図書館、体育館、行政の分室等

5.街市の分類

街市のプロセス	古い街区			新しい街区		
	中層中心 (古い建築物が多い街区)	中・高層混在 (新旧建築物が混在する街区)	高層中心 (新しい建築物が多い街区)	中層中心 (古い建築物が多い街区)	中・高層混在 (新旧建築物が混在する街区)	高層中心 (新しい建築物が多い街区)
1						
2		Chun Young St. Poplar St.	Causeway Bay → 3 (Mercury St.)			
3	A	Yau Ma Tei Mong Kok Hung Hom Center St.	Wan Chai Central			
	B		Tan Lung Chau Bridge St.			
	C		Bowrington			
	D		Boundary St.			North Point
4		Tong Mei Rd. Tai Kok Tsui	Wan Chai Temp. Haiphong Rd.			
5		To Kwa Wan Kwun Chung Fa Yuen	Sheung Wan Lockhart Java Rd.			Electric Rd.

香港の街市



A Study on Retail Markets as Determinants of Space Constitution in Hong Kong

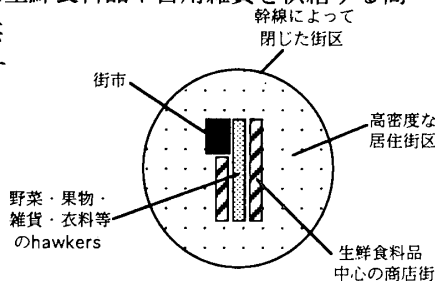
KINOSHITA Hikaru et al.

6.まとめ

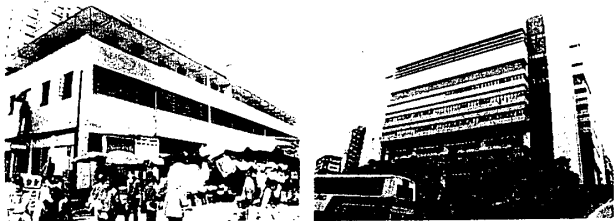
街市の法則性

街市：街区を構成し、コミュニティをつくる中心的役割・街市の動向・街区との相互依存関係

1. 街市はhawkersや商店街と一体になって、人々にとって生活に不可欠な生鮮食料品や日用雑貨を供給する商業空間であると共に、街区を構成する上で核となり、コミュニティをつくる大きな原動力となっている。



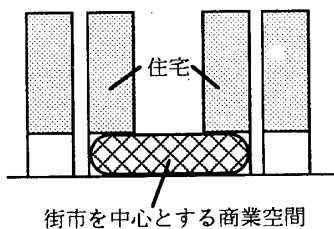
2. 1930年代から1970年代につくられた街市は、肉、魚を中心に扱う低層の建物を中心に路上のhawkersや街路沿いの商店街と一体化して、線的な商業空間をつくっている。一方、1980年代から今日にかけてつくられている街市は、高層建築の中に、前者の街市が持つ機能に加えて、図書館や体育館といった公共施設を持つ。これは、建物と路上という内と外の組み合わせによってつくられていた街市から、建物内部にすべてを収容する街市への移行である。



低層の街市（油蔴地街市）

高層の街市（官涌街市）

3. 街市と街区の関係は表裏一体である。一人当りの私有空間が不足しているため、人々が路上に溢れ、街市がコミュニティ・スペースになっているとも言えるし、街市が人々の生活を比較的安価に支える力を持っているため、所得のあまり高くない人々が集まり、周囲に高密度居住街区を形成するとも言える。



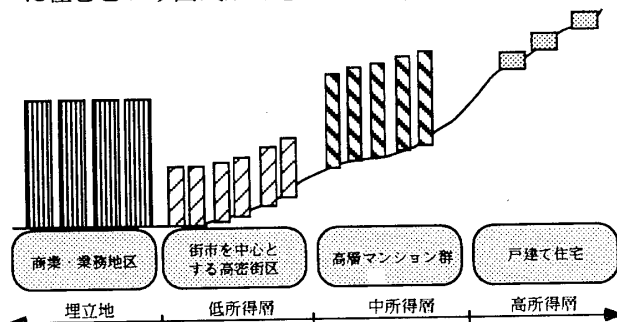
香港の都市構造

1. 香港島の都市的構造：階層性

商業業務地区→低所得層（街市のある街区）
→中所得層→高所得層（主に欧米人の居住区）
埋立地——平地・山裾——中腹——山頂付近

香港島ではその地形的背景や都市形成の歴史的背景から、所得層に応じた住分けが顕著にみられる。地形的背景とは、香港島の北側は狭く、東西に細長い平地

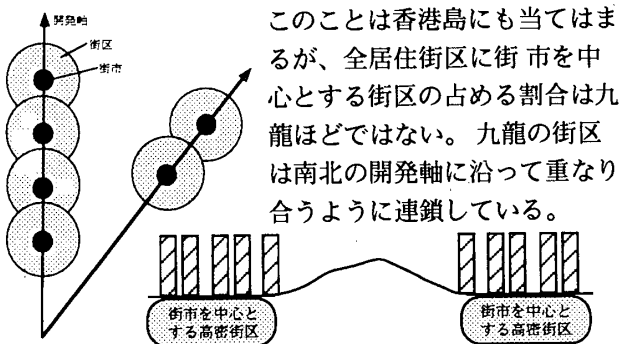
が続き、急勾配で市街地に山が迫っているということである。一方、都市形成の歴史的背景とは中国人と欧米人がイギリスの政策によって、個々に街区をつくり、居住に関する文化的土壌の違いから欧米人は山側の傾斜地に、中国人は平地に住んだということである。この二つの要素が重なり合って、豊かな階層ほど高い所に住むという図式ができあがった。



2. 九龍の都市的構造：連鎖性

九龍＝商業業務地区＋高密居住地区＋・・・
＝商業業務地区＋Σ D_k（＝D₁＋D₂＋・・・）
但し、D₁≒D₂≒D₃≒・・・
D_k＝街市を中心構成される街区

九龍では、人々が居住する街区はほとんど街市を中心に構成される街区である。そして各街区の空間構成はグリッドパターンの街路構成と高密に街路に沿って建ち上がっている中層の建物構成と類似性が非常に高い。



このことは香港島にも当てはまるが、全居住街区に街市を中心とする街区の占める割合は九龍ほどではない。九龍の街区は南北の開発軸に沿って重なり合うように連鎖している。

7. 考察

街市の高層化及びそれに伴うhawkersの収容によって街区の空間構成は大きく変化しようとしている。街市は中国人の食文化を支えるものであり、街市やhawkersの変化は人々の生活構造自体にも影響を及ぼし兼ねないものである。したがって、今後とも継続的に調査・研究を行う必要がある。

主要参考文献

1. SD9203～香港特集 東京大学大野研究室 鹿島出版会 1992
 2. もっと知りたい香港 編者 可見弘明 弘文堂 1984
 3. 中国人の街づくり 郭中端・鄭達憲一共著 相模造舎 1980
 4. アジアの都市と建築 編者 加藤祐三 鹿島出版会 1986
 5. SD別冊No.10 住居集合論4～インド・ネパール集落の構造論的考察 東京大学生産技術研究所・原研究室 鹿島出版会 1979
 6. Annual Report 1991～92 Public Information Unit, Urban Service Department 1993
 7. Land-use Planning in Hong Kong 著者 Roger Bristow OXFORD UNIVERSITY PRESS 1983
 8. STREET STUDIES IN HONG KONG 著者 FRANK LEEMING OXFORD UNIVERSITY PRESS 1977

*1 東京大学大学院博士過程

*2 東京大学先端科学技術研究センター助教授・工博